

令和5年度 第1四半期 (4月~6月)

景気動向調査結果報告

豊橋商工会議所 ビジネスサポートセンター

全産業業況 DI 値は前回調査から 10.5 ポイント改善、
令和4年度第1四半期からは 15.8 ポイント改善

■全業種概要

全産業の総合判断 DI 値は▲1.7 (前期比+10.5、前年同期比+15.8)、来期見通し (7月~9月) については±0.0 (当期比+1.7) となった。

卸売業・小売業以外の業種で DI 値が前期比プラスとなったものの、依然原材料の高騰や人件費の上昇が収益を圧迫しているとの声が多い。また、深刻化する人手不足への対応が急がれるほか、消費者の買い控えや購買意欲の低下等、需要の停滞も懸念される。

設備投資については、「実施した」との回答が 35.7 (前期比+5.9、前年同期比+2.5)、来期に設備投資を「計画している」との回答は 36.5 (当期比+0.8) となった。

■製造業

業況 DI 値は▲1.4 (前期比+17.8、前年同期比+10.8)、来期の見通しについては▲1.4 (当期比±0.0) となった。

IT 業界では好調であるとの声、鉄工・電子関連では受注が増加したとの声も聞かれたが、全般的に原材料価格の高騰、人材の確保難、需要停滞を懸念する声が目立った。食品関連では鶏卵不足や乳価上昇等、厳しい状況を訴える声が多く聞かれた。

経営上の問題点としては、「原材料価格の上昇」、「需要の停滞」、「人件費の増加」、「原材料・人件費以外の経費の増加」が主に挙げられる。

■建設業

業況 DI 値は▲6.3 (前期比+7.5、前年同期比+27.0)、来期の見通しについては▲6.3 (当期比±0.0) となった。

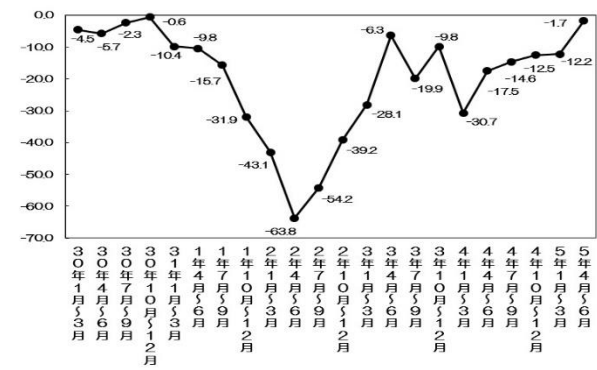
受注・完工ともに横ばいである、微増ではあるが民間需要が改善したとの声も聞かれる一方で、全般的に公共工事・民間需要ともに落ち着いてしまったとの声が多かった。また、資材高騰により採算が悪化しているとの声、職人の高齢化や採用難・短期離職等、人手不足を懸念する声が目立った。

経営上の問題点としては、「従業員の確保難」、「材料単価の上昇」、「民間需要の停滞」が主に挙げられる。

調査概要

- 調査対象
 - (1)対象地区：豊橋市内
 - (2)回答企業数：174 社
- 調査期間
令和5年4月~6月
- 調査方法
往復はがき、FAX、Google Form
- 回答企業の内訳
製造業 71・建設業 32・卸売業 17
小売業 20・運輸業 14・サービス業 20

全業種



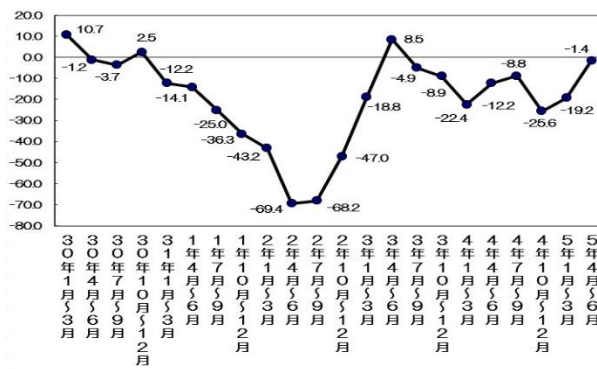
《A》前年同期 (令和4年4月~6月) と比較した景気感

良い	同様	悪い	DI値	↑
24.7%	48.9%	26.4%	▲1.7%	↑

《B》来期 (令和5年7月~9月) の景気見通し

良い	同様	悪い	DI値	↑
24.7%	50.6%	24.7%	0.0%	↑

製造業



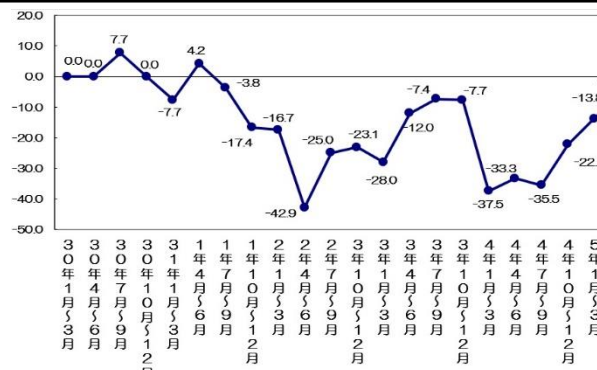
【前年同期比】 令和4年4~6月

自社の業況 ▲1.4 ↑

【来期見通し】 令和5年7~9月

自社の業況 ▲1.4 →

建設業



【前年同期比】 令和4年4~6月

自社の業況 ▲6.3 ↑

【来期見通し】 令和5年7~9月

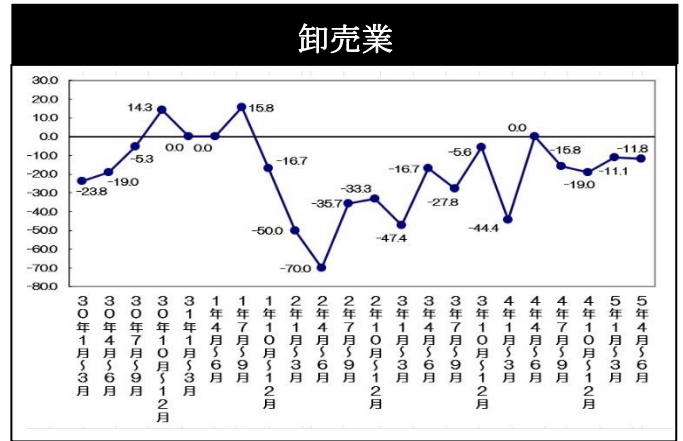
自社の業況 ▲6.3 →

■卸売業

業況 DI 値は▲11.8（前期比▲0.7、前年同期比▲11.8）、来期の見通しについては▲5.6（当期比+6.2）となった。

一部において価格転嫁が達成できた、取引先に回復の兆しがみられるとの声も聞かれる中、全般的にはやはり仕入価格や人件費等の上昇が利益を圧迫している、販売価格への転嫁が難しい等の声が多かった。

経営上の問題点としては、「仕入価格の上昇」、「需要の停滞」、「販売価格の低下・上昇難」が主に挙げられる。



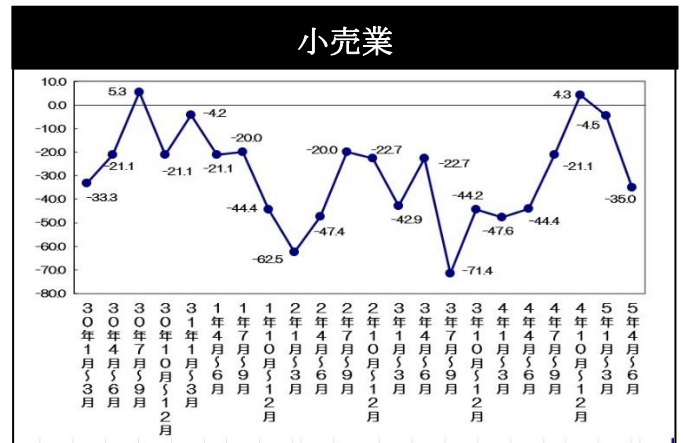
【前年同期比】	令和4年4~6月	【来期見通し】	令和5年7~9月
自社の業況	▲11.8 ↓	自社の業況	▲5.6 ↑

■小売業

業況 DI 値は▲35.0（前期比▲30.5、前年同期比+9.4）、来期の見通しについては▲28.6（当期比+6.4）となった。

全般的に仕入価格の高騰や、買い控え等需要の停滞を訴える声が多いほか、経費増加により利益率が上がらない、人手不足が深刻で業務に影響が出ている、コロナからの盛り返しが一段落したとの声も挙げられた。

経営上の問題点としては、「仕入価格の上昇」、「人件費の増加」、「需要の停滞」が主に挙げられる。



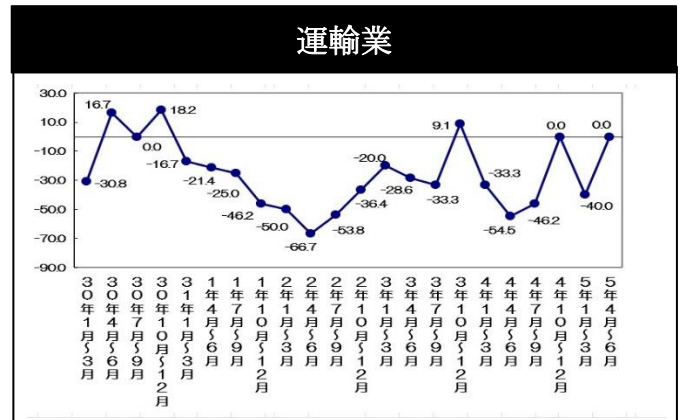
【前年同期比】	令和4年4~6月	【来期見通し】	令和5年7~9月
自社の業況	▲35.0 ↑	自社の業況	▲28.6 ↑

■運輸業

業況 DI 値は±0.0（前期比+40.0、前年同期比+54.5）、来期の見通しについては±0.0（当期比+0.0）となった。

一部で値上げ交渉の結果、運賃を値上げしてもらえたとの声があったものの、燃料の高騰や消耗品費・人件費の増加によりまだまだ厳しい状況であるとの声も聞かれた。また、「2024年問題」についても、引き続き懸念の声が挙げられた。

経営上の問題点としては「運送単価の低下・上昇難」、「人件費以外の経費の増加」、「人件費の増加」、「従業員の確保難」が主に挙げられる。



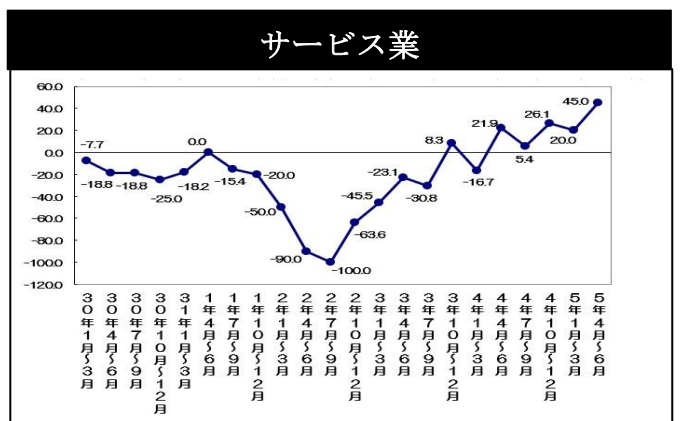
【前年同期比】	令和4年4~6月	【来期見通し】	令和5年7~9月
自社の業況	0.0 ↑	自社の業況	0.0 →

■サービス業

業況 DI 値は+45.0（前期比+25.0、前年同期比+23.1）、来期の見通しについては+52.6（当期比+7.6）となった。

コロナの5類移行に伴い、飲食店では客足が戻ってきたとの声、旅行業では需要が回復したとの声も挙げられた。一方で、警備関連では人手不足が深刻であるとの声、飲食業では人手不足に加えて原材料高騰を懸念する声があった。

経営上の問題点としては、「従業員の確保難」、「人件費の増加」、「仕入価格の上昇」が主に挙げられる。



【前年同期比】	令和4年4~6月	【来期見通し】	令和5年7~9月
自社の業況	45.0 ↑	自社の業況	52.6 ↑